絵本えらびのヒントがぎっしり

メディアパルムック

この本読んで!

2022
夏
第83号

まぶしい季節にぴったり
キラキラ夏絵本
&平和を考える絵本

知る・識る・察る
図鑑と科学絵本

もう読んだ? 新刊100冊!!

子どもたちの未来と SDGs絵本

絵本作家のブルース 長谷川義史

こんにちは! 絵本作家さん
あおきひろえ

対象別 おはなし会プログラム

特別付録 お役立ち! おはなし会カレンダー

著作権保護コンテンツ

キラキラ夏絵本

海

『すなのおしろ』
作／エイナット・ツァルファティ　訳／青山 南
1,650円（光村教育図書）
お城をつくるのが好きな私は、浜辺で砂のお城をつくりました。ドームも塔もある、本物のお城です。世界中から王さまやお妃さまがやってきました。今夜は、パーティーです！

『しおかぜにのって』
作／かじりみな子　1,540円（偕成社）
じいじとばあばから手紙が届きました。ラビッタとピョコラッタは、パパが描いてくれた地図を頼りに、山を越え、海を渡り、お迎えに行きます。はじめての旅の始まりです。

『かんじるえ』
作／大谷陽一郎
1,320円（福音館書店）
夏をテーマにした、浜辺の貝や雨上がりの虹などが描かれているのですが、よく見ると漢字が集合体となって絵を構成しています。不思議なアートの世界に出合います。

**『うみ
おたんじょう月おめでとう
7月生まれ』**
文／中川ひろたか　絵／はたこうしろう
1,430円（自由国民社）
お誕生月の絵本シリーズ、7月はキラキラ光る海のおはなしです。ほかに誕生石や誕生花の情報も。

『うさぎちゃん うみへいく』
作／せなけいこ
1,100円（金の星社）
いつもは部屋の中にいるうさぎちゃんが、海に来ました。潮だまりで遊んでいましたが、カニにしっぽをはさまれそうな小さな人魚を助け、海の中へ遊びに行くことになりました。

『はだしになっちゃえ』
文／小長谷清実　絵／サイトウマサミツ
品切れ中（福音館書店）
真夏の海水浴、はだしになったら……。砂浜が熱く焼けて、あっちっち。波打ちぎわまで行くと、海水を含んだ砂はひんやり。大きな波がざっぶーんと冷たく、そして引く波が足の下の砂と一緒に動いて、くすぐったーい。

『なつは ひるね』
作／村上康成
1,320円（フレーベル館）
ザザーン、ザザーンと波の音が聞こえる浜辺です。ザバ、ザバと泳いで魚たちと友だちになったあとは、木陰のハンモックでユラユラ昼寝をしましょう。

『うみべのくまちゃん』
文／シャーリー・パレントー
絵／デイヴィッド・ウォーカー
訳／福本友美子
1,320円（岩崎書店）
夏の海辺にやってきた、ちいちゃいクマちゃんたち。砂でお城をつくります。うまくできるでしょうか。

『海へいこうよ』
文／黒澤絵美
絵／かべやふよう
1,650円（アスラン書房）
タミとアキの姉妹は、お母さんの留守中に畳いっぱいにクレヨンで海の絵を描いて遊びます。青い海と白い波しぶき、浜に寝そべって甲羅干しをしていると、カニが横切っていきます。

**『ペンギンきょうだい
ふねのたび』**
作／工藤ノリコ
1,430円（ブロンズ新社）
ぺんちゃんとお姉ちゃん、ギンちゃんの3きょうだいは、船に乗っておじさんに会いに行きます。魚がたくさん泳ぐ小さな島に行って泳いだり、お昼に船長特製のハンバーガーを食べたり、南の島を大満喫。

**『ピッキーとポッキーの
かいすいよく』**
文／あらしやまこうざぶろう
絵／あんざいみずまる
990円（福音館書店）
ウサギのピッキーとポッキーは、モグラのふうちゃんとネズミと一緒に海水浴に出かけました。さっそく海で遊んでいたら、いたずらが大好きなタコがスーッと足をのばしてきて、みんなを沖に投げ飛ばしてしまいました。

**『うみのごちそう
しろくま』**
作／柴田ケイコ
1,540円（PHP研究所）
おいしいものの中に入ってみるシロクマくん。今回は海のごちそうの中に入ります。マグロの刺身やイクラ丼、アジフライ。想像しただけでよだれが出そうです。

『おもちのかいすいよく』
作／苅田澄子　絵／植垣歩子
1,320円（学研プラス）
海で遊んだちーちゃんともーちゃんはひと休み。お昼寝から目覚めると、あれあれ、ちーちゃんがいません。たくさんの人の中から、ちーちゃんを見つけられるかな？

『オセアノ号、海へ！』
作／アヌック・ボワロベール、
　　ルイ・リゴー
訳／松田素子
2,420円（アノニマ・スタジオ）
オセアノ号が大海原へ船出します。海の中にはいろいろな生きものがいます。ページの仕掛けをめくって、海の中をのぞいてみましょう。

『ようかいえんの かいすいよく』
作・絵／白土あつこ
1,320円（ひさかたチャイルド）
化けダヌキのばけたは、園のみんなと海水浴に来ました。海に入る前に「ようかいたいそう」で体をほぐします。ばけたは泳げないので、浮き輪を持って、さあ海へ！　そこに大きな海坊主のうみたろうが「おいらの うみだぞー」と言ってやってきます。

『まいごのビーチサンダル』
作／村椿菜文
絵／チャンキー松本
1,430円（あかね書房）
浜辺に忘れられた片方のビーチサンダルのサンは、波にさらわれ、沖へどんどん流されていきます。そして途中で出会ったサンゴの卵たちやリンゴが悲しい別れをしていることを知ります。

『おーなみこなみざぶん！』
作／長野ヒデ子　絵／西村繁男
1,430円（佼成出版社）
「おーなみ こなみ なみが わらうと なーつだよ」「なーつは ぎんぎら てーるでしょ ざぶん！」とテンポよく、行水や夏祭り、夜店、花火など、夏の風物詩が並びます。

生きもの

新刊「おしえてエコロジー 生きもののつながり」全6巻

④『のこりものを
そうじする』

⑤『すべてのはじまり
光合成』

⑥『あみの目の
つながり』

著／グレイス・ハンセン　訳／上田勢子　監修／小佐野正樹　各2,200円（子どもの未来社）
地球の生きもののつながりである食物連鎖を通して、生態系や植物の光合成など、地球上のあらゆる循環を写真で見られます。ほかに『食べる・食べられる』『エネルギーをつくりだす』『エネルギーをもらって生きる』。

『水族館
いきものと
ひとのいちにち』
作／ほりかわあやこ
1,760円（福音館書店）
水族館で働く人たちと、訪れるお客さんの両方の視点で進みます。ところどころにある折り込まれたページをめくってみると、知らなかったバックヤードの「ヒミツ」に出合えます。

「香川照之の 昆虫すごいぜ！ 図鑑」全3巻
著／カマキリ先生、NHK「昆虫すごいぜ！」制作班　各1,210円（NHK出版）
カマキリ先生が各巻、トノサマバッタやモンシロチョウ、タガメ、オニヤンマなど昆虫の驚く生態を紹介。巻末についている「昆虫をとりまく自然カード」は大人も楽しく遊べます。

『すごい虫ずかん
ひるの虫とよるの虫』
作／じゅえき太郎
監修／須田研司
1,540円（KADOKAWA）
虫捕りに来た子が、虫捕り名人と名乗る男の子と出会いました。昆虫は種類によって活動する場所も時間帯も違うことを教えてもらい、いろいろな場所に行ってみます。

『自然を再生させた
イエローストーンの オオカミたち』
文／キャサリン・バー
絵／ジェニ・デズモンド
訳／永峯 涼　監修／幸島司郎、植田彩容子
2,090円（化学同人）
アメリカのイエローストーンではシカ科のエルクが大繁殖し、草という草を食べつくし、荒廃していました。そこへエルクの天敵であるオオカミをカナダから移送。生態系が保たれるようになるまでの実話です。

『いろんなところに
いろんな むし』
作／ブリッタ・テッケントラップ
訳／いとうむしひこ
2,420円（講談社）

『いろんなところに
いろんな さかな』
作／ブリッタ・テッケントラップ
訳／小野寺佑紀
2,420円（講談社）

虫や魚はどんなところに、どんなふうに生息しているのでしょう。住んでいる場所や身を守る驚きの技などが披露されています。30カ国以上の国々で愛されている世界的絵本作家による人気シリーズ。

『青い羽みつけた！
さがしてみよう 身近な鳥たち』
作・絵／富樫一望　文／宇田英男（Noovo Inc.）
監修／（公財）日本野鳥の会
1,320円（パイ インターナショナル）
学校の帰り道、美しい青い鳥の羽を見つけました。どんな鳥の羽でしょう？ さっそく、近所の公園や川に鳥を探しに行ってみました。巻末には野鳥観察のポイントがまとめられています。

新刊

『鳥になった恐竜1
恐竜と鳥の
似ているところ』

『鳥になった恐竜2
鳥にちかい恐竜図鑑』

監修／真鍋 真　絵／山口まさよし　各3,080円（理論社）
第1巻では恐竜と鳥の共通点をひとつひとつ解説。第2巻は、恐竜が少しずつ、少しずつ鳥になっていく進化の過程を詳しく紹介しています。

『入門図鑑
わたしたちと
世界の生きもの100』
作／サイモン・バーンズ
絵／フラン・プレストン＝ガノン
訳／鳥見真生　2,970円（あすなろ書房）
ノミが人類の歴史を大きく変えたこと、海の王者・ダイオウイカの天敵、トラとライオンの行動の違いなど、100の動物のワクワクするような知識がギュッとつまっています。

『消えゆく動物たちを救え
子どものための絶滅危惧種ガイド』
作／ミリー・マロッタ　訳／鈴木素子
3,520円（光文社）
絶滅危惧種とは何か、絶滅危惧種に指定されていると何が起こるのか。43種類の生きものの秘めた能力を子どもたちにわかりやすく解説しています。

「サバンナを生きる」全5巻

『カバのこども』　『ゾウのこども』　『キリンのこども』

写真・文／ガブリエラ・シュテーブラー　訳／たかはしふみこ　各1,980円（徳間書店）
アフリカのサバンナで生きる野生動物の赤ちゃん。生まれてから群れの中でどのように成長していくのかを、迫力ある写真で追っています。ほかに『ライオンのこども』『シマウマのこども』。

『うんちしたあと どうなるの？』
作／ジェーン・カーツ
絵／アリソン・ブラック　訳／いけもとなおみ
1,760円（潮出版社）
動物園にいるさまざまな生きものは、毎日たくさんのうんちをします。色も形もそれぞれ異なります。それらは意外なところに運ばれて、私たちの役に立っています。

『世界一キモイ いきもの図鑑』
文／アンディ・シード
絵／クレア・アルモン
訳／鹿田昌美
日本語版監修／郡司芽久
2,640円（NHK出版）
キモイ外見の生きものもたくさんいます。でも、その不細工さは生き残るために必要だったり、その環境下では必須の知恵だったりします。

あおきひろえさんを知る 6つのキーワード

絵本作家としてのお仕事、夫・長谷川義史さんのプロデュース、落語の寄席“ツギハギ荘”の運営。二刀流ならぬ、三刀流をこなすあおきさん。ほんわかした雰囲気と思いきや、よく「強そうな女、と言われます」。

絵本ライブなどで、ウクレレを片手に歌うこともあるあおきさん。「演奏は長谷川さんのほうが上手です」。

乾物屋さんだった建物をリフォームして、お子さん3人を育てた家。今は改装して寄席に。名前は、『長靴下のピッピ』からとって“ツギハギ荘”。上方落語の聖地である繁昌亭からも近く、月の半分以上は開演しているのだとか。

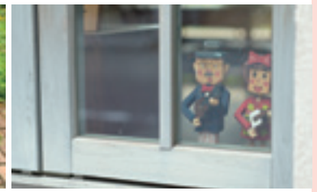
(右)かつて、息子たちがイヌのチャイのお散歩を忘れがちだったので、メモがわりに絵を。(中)夫婦でご縁のある落語作家の小佐田定雄先生と桂 南光師匠。「かわいくて、一本筋の通った方々です」。(左)次男5歳ごろの絵。リラックスしているときの長谷川さんが描かれています。

(右)お仕事机の上に置かれた画材。小さなカットはパソコンで着色することもたまにあるそうですが、ほとんどが手描きです。(左)大好きな色は黄色。大好きなゴッホの絵やいただいたカードなど、お気に入りを飾っています。実は、パソコンもイスも黄色！

「仕事の原動力となるのは、自分が考えていること。それを、絵にしたくなるんです」。今は、落語の新作を題材にした絵本の制作にとりかかっています。

本誌巻頭で連載中の長谷川義史さんが飛び入り参加。「それ私の服じゃない～？(笑)」とあおきさん。

(右)自宅に併設したギャラリー「空色画房」。「この案内板は、見ず知らずの子が突然、『これつくったよ～』と持ってきてくれたんです。なんとなく味があっていいなと」。(左)あおきさんの愛車。最近は乗る回数が減っているのだそう。



(右)「“しつらえ”という文化が好きで、外から見えるところに季節のものや好きなものを飾っています」。これはファンの方がつくってくださったもの。(左)大川からの風が庭を吹き抜けるアンティーク風の一軒家。庭には愛犬チャイのお墓があります。

RIVAL …ライバル

「30代はとにかく男の子3人の子育てで多忙でした。絵本をつくってみたいと思っていましたが、絵を描く時間も、売り込みに行く時間もない。そんなとき、夫の長谷川さんがどんどん絵本で成功して……。この素晴らしい才能を応援したい！ という思いの一方で、正直、悔しくて、悔しくて、歯ぎしりする思いでした。でも、年齢を重ねるにつれ、あきらめというか、若いころほどメラメラした気持ちはなくなり、心がなだらかになりましたね」

FOOD EDUCATION …食育

「子どもはとにかくごはんを食べさせときゃ、勝手に大きくなります(笑)。おいしいものをおなかいっぱい食べさせるようにしたら、ちゃんと家に帰ってくるんです。小さいころは勉強とかも気になりますけど、その後の生き方や健康な体づくりのほうがよっぽど大事。子どもたちは今、28、25、22歳。それぞれ巣立ってからは、とたんにごはんづくりがおっくうになって(笑)。最近は長谷川さんがよくつくってくれます。でも、子どもたちが帰ってくる日は、がぜんはりきってごはんをつくっています」

OSAKA …大阪

「大阪は本当に大好き。洗練されていますよね～、都会だし。言葉のやりとりが本当にすごいと思います。返す言葉ひとつひとつがシャレてるというか……。間もいいし、そのへんの人がみんなおもしろい。小学校のPTAの会合に参加すると、話のテンポがよすぎて、どこで会話に入っていいのかわからない、モタついてひと言も返せない。大縄跳びに入れない子みたい。まわりの人のように大阪弁で上手に会話ができるようになりたくて、落語を習いはじめました。でも私の大阪弁は気持ち悪いからやめろ、と長谷川さんには言われています」

RAKUGO …落語

「子どものころ、自分の名前の由来を尋ねたら、母に、姉の名づけ候補の中からはずれた名前をもったいないからつけといた、と言われ本当にショックでした。たとえ本当のことでも普通言いませんよね？ でも今は、正直すぎてなんか笑える！ って思えるようになりました。笑いに変えることでコンプレックスも浄化できるんです。落語の世界でも、アホが失敗をして噺が転がっていきますが、最終的に誰も憎めず人間ってかわいいな、と思わせてくれる。古い大阪弁もおもしろいし、落語は自分がどう生きていけばいいかを教えてくれるバイブルです」

HASEGAWA …長谷川さん

「長谷川さんはそりゃ～絵が上手。だから結婚しました(笑)。もともと彼はグラフィックデザイナーの会社に、私はイラストレーターの会社にいて、その会社が兄弟会社だったことが出会いのきっかけ。私は、彼のプロデューサーもしているので、褒めて褒めてのばしたつもりです。でも、彼は私のことをあんまり褒めてくれません。ウソでもいいから褒めてくれたらいいのに(笑)。夫婦だから腹が立つこともありますが、少し斜に構えたものの見方がおもしろい人です。共通の趣味は、しいていえば「お酒」。居酒屋にしょっちゅうふたりで行っています」

CHAI …チャイ

「はじめての夫婦絵本『シバ犬のチャイ』(BL出版)。イヌが仕事で忙しい自分の代わりに、子どもたちの心を癒してくれるという友人の話を聞いて、飼い始めた豆シバ犬のおはなしです。一緒に17年過ごしましたが、亡くなったときはクールな息子たちも声をあげて泣いていました。ちなみに、夫婦共作だと、とても仲よくつくっているように思われるのですが、完全に別作業。長谷川さんの絵に対して意見があるときは、すべて編集者さんを通していました。直接言うとケンカになりそうで。電話代のムダですよね(笑)」

著作権保護コンテンツ

もう読んだ？

新刊100!!

2021年12月～22年2月に発売された新刊絵本の中から、読みきかせにもおすすめの100冊を選びました。子どもたちと素敵な時間を過ごしてください。

※出版社五十音順　※右は右開きの本。

マークは乳幼児から、は中・高校生も楽しめる本です。

定期購読者限定プレゼント

新刊絵本プレゼントの詳細は、このページの下欄をご覧ください。

『こぐまの ともだちは どこ？』

作／ペトル・ホラチェック
訳／椎名かおる
1,540円（あすなろ書房）

寂しい黒クマくんが友だちを探して歩いていると、向こうからやってきた茶クマくんも友だちを探していました。危ない道も一緒に力を合わせて進めば、本物の友だちを見つけることができそうです。

『おもち ちゃん』

作／きたがわめぐみ
1,430円（アリス館）

お餅のおいしさを広めるために、「わくせいおもち」からやってきたおもちちゃん。仲間と一緒にお米をといで、お水につけて、蒸しました。さあ、いよいよ臼と杵の出番です。おいしいお餅ができるかな。

『和ろうそくは、つなぐ』

右

作／大西暢夫
1,650円（アリス館）

和ろうそくは、昔から続く職人の技術で手づくりしています。モノづくりは、木や川や土から恩恵をいただき、土に還る循環があります。捨てるところはありません。日本の文化を写真で伝えます。

『そだててみたら…』

作・絵／スギヤマカナヨ
1,320円（赤ちゃんとママ社）

ある日、植物を種から育てて日誌をつけるという宿題が出ました。何の種にするかなかなか決められないぼくは、種屋のおじいさんに相談します。そこで出会った「話のたね」。「話のたね」って何？ 一生懸命育てると……。

『スリー 3ぼん あしの しあわせな イヌの おはなし』

文・絵／スティーヴン・マイケル・キング
訳／神野三鈴
1,870円（イマジネイション・プラス）

スリーは３本足のイヌですが、毎日幸せを感じながらお散歩しています。ある日、自分と似ているところがたくさんあるファーンという女の子に出会い、家族になりました。

『ハタハタ 荒海にかがやく命』

作／高久 至
1,430円（あかね書房）

秋田の魚ハタハタは、普段水深200～300mの深海にいますが、本格的な冬が始まる前に水深２～５mの荒れくるう海にやってきて産卵します。その卵は色とりどりで宝石のよう。巻末のハタハタを取り巻く情報も必読です。

『むれを みちびく ゾウの じょおうさま』

文／ジューン・スモールズ
絵／しもかわらゆみ
訳／あまがいひろみ
1,870円（イマジネイション・プラス）

ゾウは家族で群れをつくる動物です。群れを導く女王さまは年をとった賢いメスです。食べものや水を見つけ、敵から家族を守り、大自然の中で生きる知恵を、次の世代に引き継ぎます。

『あなの なかから…』

作／さいとうしのぶ
1,320円（あすなろ書房）

壁の穴、塀の穴、いろいろな穴から、動物たちが、ばあ！ ばあ！ ばあ！と出てきます。トンネルからは何が出てくるのかな？ 想像するのも楽しく、穴の数もだんだんと増えていきます。

※JPIC直販の定期購読の方に、抽選で新刊絵本100冊から1冊をプレゼントします。巻末のアンケートハガキまたはホームページのアンケートフォームから応募してください。

『おとどけもの』

作／五味ヒロミ
絵／まえはらあきこ
1,540円（潮出版社）

グーは、ママが作った赤ぶどうジュースを、おばあちゃんにひとりで届ける途中、赤ぶどうジュースを全部飲んでしまいました。困ったグーは、かわりに素敵なものを届けました。

『きょうは おうちで いちごがり』

作／新井悦子
絵／つがねちかこ
1,540円（岩崎書店）

熱を出して保育園のイチゴ狩りに行けないたっくんのために、お父さんとお母さんがおうちにイチゴ農園をつくってくれました。イチゴ狩りにイチゴ給食、ほかにも楽しいアイデアがいっぱい！ おやつレシピもついています。

『ジロッ』

文／おおなり修司
絵／たけがみたえ
1,430円（絵本館）

ジロッ。草むらでカエルがサナギを狙っています。パクッ。サナギを丸ごと飲み込んだカエルがお昼寝をしていると、そこにヘビの気配が……。パタパタ。そのとき、カエルのおなかの中で何かが起こりました！

『しあわせ ぎゅ ～～ っ！』

文／ジーン・リーディ
絵／ジョーイ・チョウ
訳／木坂 涼
1,540円（岩崎書店）

あるところに「誰かを ぎゅーってしたいなぁ」と思っているナメクジがいました。そこへ、クワガタがとぼとぼ寂しそうに歩いてきます。さあ、ぎゅーってしたら、どんな気持ちになるでしょう？

『つんつん ぱん！』

作／はるのまい
1,320円（発行：エンブックス／発売：メディアパル）

赤ちゃんのぷくぷくした腕は、ちぎりパンみたいです。おててはクリームパン、ほっぺはあんぱんです。まんまるでふかふかの赤ちゃんをつんつんしたり、ぎゅっとだっこしたり親子で楽しくスキンシップしましょう。

『スープとあめだま』

作／ブレイディみかこ
絵／中田いくみ
1,870円（岩崎書店）

雪の中、お姉ちゃんはホームレスの人を助けるボランティアに出かけます。ついていったぼくは、シェルターの教会でホールの仕事を手伝うことになりました。あたたかいスープを手渡すと、その人はあめ玉をくれました。

『いえるよ！ NO わたしらしく 生きるための大切なことば』

作／ジェニー・シモンズ
絵／クリスティン・ソラ
訳／上田勢子、堀切リエ
1,870円（大月書店）

苦手な映画に誘われたり、サイクリングに行きたくないとき、「NO」って言えますか？　簡単ではないけれど、自信を持って使えば最強のパワーになります。心の声に耳をすませて本当の気持ちを見つけましょう。

『シェルパのポルパ 火星の山にのぼる』

文／石川直樹
絵／梨木 羊
1,980円（岩波書店）

ポルパはシェルパとして、誰かの手助けをしながらたくさんの山に登ってきました。火星にはエベレストより高い山があると聞き、挑戦してみたくなりました。準備万端整えたら出発。仲よしのヤクのプモリも一緒です。

『アーロ ねむれないライオン』

作／キャサリン・レイナー
訳／橋本あゆみ
2,090円（化学同人）

ライオンのアーロは、何をしても、どうしても眠れません。アーロはフクロウにやさしい歌を歌ってもらいました。そうしたら、いつの間にか眠れたのです。ぐっすり眠ったアーロは元気いっぱいです。

『たびする てんとうむし』

文・絵／イザベル・シムレール
訳／石津ちひろ
1,980円（岩波書店）

まっ赤なテントウ虫が、卵を産む場所を探しています。そこは、緑広がる田園地帯。小枝そっくりのナナフシや花びらみたいなハナカマキリなど、風変わりな虫に出会い、追い払われ、食べられそうになってもへこたれずに進みます。

※JPIC 読書アドバイザーおすすめ！

7～9月のプログラム

プログラム（各10～15分）小学校高学年

7月　テーマ：さぁ、夏のはじまりだ！

❶『すいめん』
写真・文／高久 至
1,540円（アリス館）
目のさめるような世界に引きこまれる、ワクワクする写真絵本です。空と海の境界線、水面を通り抜け、みんなで冒険の海にダイブ！

❷『お月さんのシャーベット』
作／ベク・ヒナ
訳／長谷川義史
1,540円（ブロンズ新社）
夏の夜、暑すぎて月がとけてしまう、楽しいファンタジー絵本。幻想的な暗闇と月の光の色に注目です。絵にぴったりの大阪弁を大切に。

8月　テーマ：忘れてはいけないこと

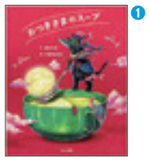
❶『さがしています』
作／アーサー・ビナード
写真／岡倉禎志
1,430円（童心社）
広島に原爆が落ちたあの日を語りつぐ物たち。時計のページは読み、他のページは写真を見せるだけで。

❷『パンフルートになった木』
文／巣山ひろみ
絵／こがしわかおり
1,540円（少年写真新聞社）
小学校で子どもたちを見守ってきた木は、原爆を浴びても生きのびました。その命が楽器に生まれ変わり、平和の音色を響かせます。

❸『黄色い星　ユダヤ人を守った国王とデンマークの人たちの物語』
文／カーメン・アグラ・ディーディ
絵／ヘンリー・ソレンセン　訳／那須田 淳
1,760円（BL出版）
ユダヤの人がナチスに迫害された戦争で、デンマーク国王が行ったことは？ それはすべての国民の自由と権利を守ることになりました。

9月　テーマ：秋の夜空には……

❶『おつきさまのスープ』
作／野中 柊　絵／木原未沙紀
1,650円（くもん出版）
黒ネコのクロロの誕生日の夜、不思議なことが起こります。鮮やかな色使いの絵が印象的な絵本です。ゆっくりと見せてあげてください。



❷『きょうは そらに まるいつき』
作／荒井良二
1,540円（偕成社）
ふと見上げた夜空に満月を見つけたときの喜びは、みんな同じです。絵画を見ているような遠目がきく絵本。リズムのいい文も味わいましょう。

（畠山英理子）

プログラム（各10～15分）小学校中学年

7月　テーマ：あの星のかなたに思いをはせる

❶『4こうねんのぼく』
作・絵／ひぐちともこ
品切れ中（そうえん社）
１光年離れた星から１年前の地球が見えると聞いたぼく。時を超え見たかった光景とは？ 家族への切ない思いがあたたかく胸に迫ります。

❷『ほしにむすばれて』
文／谷川俊太郎
絵／えびなみつる
1,430円（文研出版）
祖父、母、ぼくの３代に引き継がれる、星に魅せられた家族の物語。悠久の時の流れを美しい星空の絵でしっとりと見せてくれます。

❸『夜空をみあげよう』
文／松村由利子
絵／ジョン・シェリー
1,320円（福音館書店）
星や宇宙に夢を持ち続ける子どもたちへ。星座の探し方や月の満ち欠け、星空観察のコツや準備するものなどを詳しく解説してくれます。

8月　テーマ：平和を考える

❶『そらいろ男爵』
文／ジル・ボム
絵／ティエリー・デデュー
訳／中島さおり
1,430円（主婦の友社）
本は爆弾より強し。平和をもたらすのは軍備ではなく知性であり、他者との相互理解であることをユーモアたっぷりに説いています。

❷『もっと おおきな たいほうを』
作／二見正直
990円（福音館書店）
争いがエスカレートする恐ろしさ、力で相手をねじふせることの愚かさを感じてほしい。

9月　テーマ：風とともに

❶『風の島へようこそ　くりかえし つかえる エネルギー』
作／アラン・ドラモンド
訳／まつむらゆりこ
1,430円（福音館書店）
島に吹く強い風を利用した自然の再生エネルギーで自給自足の暮らしをめざした、サムス島での実際の取り組みが紹介されています。

❷『旅する風』
作／新宮 晋
4,070円（BL出版）
風は森や砂漠、海から宇宙へと旅を繰り広げます。風の目を通して地球上の自然とのふれあいが楽しめるポップアップ絵本です。

（森本佳代子）

プログラム（各10～15分）小学校低学年

7月　テーマ：ちっちゃな心の冒険物語

❶『こんとあき』
作／林 明子
1,430円（福音館書店）
おばあちゃんの作ってくれたキツネのぬいぐるみと成長したあき。ほつれたぬいぐるみを直してもらいにおばあちゃんの家へ旅するハラハラ、ドキドキの冒険物語。

❷『ちょっとだけ』
作／瀧村有子
絵／鈴木永子
990円（福音館書店）
お姉さんになったなっちゃん。赤ちゃんがいるのでなんでも自分でやろうとして、ちょっとだけ成功します。最後はママに思いきりだっこしてもらい、満足したなっちゃんです。

8月　テーマ：命の大切さを考えよう！

❶『へいわって すてきだね』
詩／安里有生
画／長谷川義史
1,540円（ブロンズス新社）
今でも世界のどこかで戦争をしています。尊い命を守るためにもう一度平和について考えたい作品。

❷『つかまえた』
作／田島征三
1,540円（偕成社）
大きな魚をとろうとして川の中へ。魚のぬるっとした感触や、ぐりぐりと感じる命の戦いに、躍動感や力強さが感じられます。

9月　テーマ：やさしい心になれる絵本

❶『まよなかのたんじょうかい』
作／西本鶏介
絵／渡辺有一
1,320円（鈴木出版）
さきちゃんはお母さんとおばあちゃんの３人暮らしで、お母さんはタクシーの運転手。さきちゃんの誕生日会に急な出来事が起こり、母さんは大遅刻してしまいます。

❷『てんごくのおとうちゃん』
作／長谷川義史
1,650円（講談社）
幼くしてお父ちゃんを亡くした少年が、少ない思い出を胸にお母ちゃんと妹を守っていこうと、手紙を書くように語りかけます。

（鶴見美佐子）

対象別おはなし会のプログラムです。ここで紹介する絵本や紙芝居は、ご家庭での読みきかせにもおすすめです。ブックガイドとしてもご活用ください。

行事絵本・季節の絵本

夏休み・山の日

『おーい、ふじさん！』
写真・言葉／大山行男　1,650円（クレヴィス）
世界文化遺産でもある日本一の山・富士山の、さまざまな姿と表情をとらえた写真絵本です。知っているようで知らなかった富士山再発見です。

お盆

『ぼんちゃんのぼんやすみ』
作／あおきひろえ
1,650円（講談社）
ぼんちゃんは、家族でおばあちゃんの家へ行きました。「ご先祖さまの里帰り」であるお盆の準備を手伝います。

紙芝居

『うみのはなし』
脚本・絵／かこさとし
2,200円（童心社）
海は大きく、塩辛い水の中で、魚やたくさんの生きものたちが住んでいるだけではありません。まじりあい、つながっている海の様子を見てみましょう。

紙芝居

『いたずらかっぱの きずぐすり』
脚本／やえがしなおこ　絵／篠崎三朗
2,090円（童心社）
ゆらゆら揺れる馬のしっぽをつかんだ、いたずらもののかっぱは、とっさまに引っぱられて手が抜けてしまいました。かっぱそうをもんで、塗ってみると……。

紙芝居

『たいふうが やってきた！』
作／たけしたふみこ　絵／相野谷由起
1,815円（教育画劇）
雨が降り続いて、川の水があふれそうです。ネズミの家族とウサギの家族は、クマさんの家に避難しました。そこには、ほかの動物たちも来ていました。

（安冨ゆかり）

※当財団（JPIC）では読書を通して国民の生涯学習推進・読書活動の推進のために、1993年より「JPIC 読書アドバイザー養成講座」を開設。読書や出版について体系的に学習する講座です。
JPIC 読書アドバイザークラブ（JRAC）とはこの講座の修了生の有志により自主活動しているクラブ。全国に約660名が在籍、地域のおはなし会などで活躍しています。